



【ヒロバトルFGO1】

サキユバス♡BBちゃんの痴女ラメラに、
耐えてイかせて中に出せ！



エロバトルン文庫



登場ヒロイン



BB

サキュバスサーヴァント。
BBの姿で主人公の精液を
搾り取る恐ろしい淫魔。
フェラチオに注意。

マシュ

主人公のサポート役。
クールで辛辣なエロ実況で
主人公を興奮させる。
罵倒しましゅ。



オルガマリー

主人公をスカウトした
カルデアの所長。
常識人ぽいが、影が薄く
スカートを履かない。

サキュバス♥BBちゃんの痴女フェラに、耐えてイかせて中に出せ！【エロバトルFGO1】

1、サキュバスBBちゃんの痴女フェラチオに敗北射精！？

「つぎのセンパイはっけーん♥ここに転がってるしぼりカスは、ホンモノのセンパイではありませんでした♥♥♥ちよっとお口でチュパチュパ♥しただけなのにすぐイツちゃったんですよ？」

そこには全身から黒い瘴気を放ち赤い瞳をハート型にして、いやらしく爆乳を揺らすBBちゃんが無邪気にピョンピョンとびはねている。

そこは燃え盛る街並みと瓦礫の世界。

彼女の周りにはこの世界の住人であろう、たくさんの男たちが下半身を露出したまま倒れている。

「マスター、サキュバスサーヴァントと接触。彼女はBBさんの姿をしていますが、『ニセモノ』です。男性から精液を搾り取り命まで奪う、恐ろしいサキュバスの一種、サキュバスサーヴァントです」

サポート役のマシュからの通信が入る。やはりこいつが人間を襲い魔力の糧となる、精液を死ぬまで搾り取る元凶のサキュバスのようだ。

「サキュバスは物理攻撃では倒せません。快感を与えて絶頂、つまりイかせまくることで子宮の中にある『卵』がむき出しの状態になります。そこにマスターの発情した汚い、臭い、童貞精子をぶっかけてください」

……ん？なんかマシュに、罵倒されてない？

「……そんな事はありません。とにかくマスターの精液をサキュバスの子宮にある卵にぶっかけて受精させれば、サキュバスは卵を残して消滅します。マスターのちんぽからでる精液だけがサキュバスを倒せる唯一の精液なのです！」

なるほど、そうやってサキュバスを倒すと研修で習ったな。

しかし、とんでもない事に巻き込まれてしまったなあ……

仕事を辞めさせられ無職になった俺。

絶望しながら街を歩いていたら、ちんぽに素質があると謎の痴女にスカウトされ、やってきた場所は美女サーヴァントでいっぱいなFGO世界のカルデア。

人理修復など一般人には無理と拒否したのだが……サキュバスをイカせるだけの簡単で楽しいお仕事だという。

しかも、サキュバスは美女サーヴァントの姿だと言うし！それなら精液を搾り取られて死んでも悔いはない。

そのうえ、童貞をささげる初めての相手が爆乳のBBちゃんだと！？神様ありがとう！

「今回の任務はサキュバスBBさんを倒す事と卵の回収です。サキュバスはいやらしい誘惑を常にしてきます。惑わされずに容赦なくイかせてください」

そうか、でもサキュバスとはいえBBちゃんの姿をしている子を倒すのは心が痛むな……

「心配いりません。サキュバスの卵にぶっかけて受精させれば、サーヴァントの霊基は開放され邪悪な魂だけ浄化されます」

「そうなのか？よくわからないけど」

ピピッ

そこで別の通信が入る。

「もしもーし♥聞こえますか？センパイ？」

その声はBBちゃん(ホンモノ)！？

「はい♥わたしです♥ホンモノのBBちゃんです♥センパイ、サキュバスがわたしの姿をしていても遠慮はいりませんよ！むしろわたしの姿であんな痴態をさらされるのは我慢できません！お願いですセンパイ。あのBBを倒しちゃってください！」

そうか、確かに自分と同じ姿のニセモノがエロい事しまくっているなんて耐えられないよな。

任せてくれ！BBちゃん！あのサキュバスは俺が倒すよ！

「きゃー♥♥♥かっこいいですセンパイ♥がんばってくださいね♥勝てたらご褒美あげちゃいます♥応援してますね♥ちゅ♥」

プツンッ

愛らしい投げキスをしてBBちゃんの通信が切れた。と思いきや、目の前にニセモノのBBちゃんの愛らしい紫の瞳が迫っていた！

「なにさっきからBBちゃんをほっといて一人でブツブツいってるんですか～センパイ！」

うっ……ニセモノとはいえ、間近で見るBBちゃんは可愛すぎる！そしておっぱいがデカイ！

「すぐに逝っちゃうこいつらには飽きちゃいました♥♥♥センパイは、そんな事ありませんよね？BBちゃんを満足させられるほど～♥♥♥たっぷーり濃～い魔力をもってますよねえ？♥♥♥」

ぶるるん♥♥♥

自ら爆乳おっぱいをさらけ出して、俺を挑発してくるBBちゃん。

白い素肌が輝いて幻想的な美しさがある、しかしその先端にある乳首は生々しくエロい形をしているのだ。

「うふふふ♥そんなにBBちゃんのおっぱいが気になりますかあ？もしかして、センパイは童貞さんなのかなあ？かわいー♥」

紫の長い髪をゆっくりとかきあげて、微笑んだBBの赤い舌がチロリと獲物をねらうように唇をなめた。

「それじゃあいかせちゃいますよお♥覚悟してくださいね♥セ・ン・パ・イ・♥」

BBちゃんが消えた！？と思った瞬間に下半身に感触が。

「大変です！BBさんにフェラチオされています。マスターの洗っていない汚物のちんぽを即尺するなんて恐ろしいサキュバスです。相手が可愛いからと言って油断しないでください役立たず」

マシュの冷静で辛辣な罵倒が聞こえてくる。逆にBBちゃんのお口は暖かく、柔らかい。つまりとんでもなく気持ちいい。



ちゅぼちゅぼ♥ちゅぼぼ♥ちゅぼお♥♥♥

だが.....ちんぽから精液を搾り取るためだけの、乱暴なフェラチオであることには変わらないようだ。

「んふう♥♥♥センパイ♥♥♥お精子をいっぱいちょうらい♥♥♥♥♥ちゅぼぼ
♥♥♥ちゅぶ♥♥♥おくちのナカにい♥♥♥♥♥ちゅぶちゅぶ♥♥♥♥♥」

俺のことを好きだとか、愛してるとかそういう優しさがまるで感じられない。

「はあああん♥♥♥くさいちんぽおお♥♥♥♥♥好きいい♥♥♥♥♥発情しちゃう
ううん♥♥♥♥BBのフェラチオ♥♥♥♥♥どうですかあ??♥♥♥センパイ
♥♥♥♥♥んふう♥♥♥♥♥」

ただちんぽを気持ちよくさせて射精させようとする痴女フェラでしかない
のだ。

そっちがその気なら！

「んふ♥♥♥かたいちんぽお♥♥♥♥♥だいしゅき♥♥♥んふう♥んぶううう!?
ん！んっ！んんん~~~~っ♥♥♥♥♥」

俺自身も好き勝手に犯させてもらおう！スキル発動！瞬間強化！

自身のちんぽを一回り大きくするスキルを使う。元から巨根とサーヴァン
トたちの間で有名な俺のちんぽがさらに倍の大きさになり、BBちゃんのお
口がふくれあがる。

「んうう~~♥♥♥♥しえんぷあふい~~♥♥♥おちんぽおお♥♥♥♥♥お
しゅぎましゅ~~♥♥♥♥♥」

「何言ってるかわかんねーよ！日本語喋れエロサキュバスが！」

ずぼずぼじゅぼぼぼおおお♥♥♥♥♥

「んふ♥♥♥♥んほおお♥♥♥じゅぶ♥♥♥あらまくりゃくりゃしゅる♥♥♥♥♥んふ
おおお♥♥♥♥♥ちんぽおお♥♥♥♥♥しゅごいいいい♥♥♥♥♥」

「すごい！すごいピストンですマスター！BBさんの小さいお口に恥ずかしげもなくマックス勃起したちんぽをねじ込んで犯してます！BBさんの顔も緩みっぱなしでいやらしいひよっこ顔です！」

くっ！確かに手応え、いやちんぽ応えはあるがさすがはBBちゃんの姿をしたサキュバス！ねっとりとした舌を口の中でうごめかして！うっ……やばい！

「んふふふ～♥♥♥ろうひたんれしゅか？♥♥♥おちんぽおお♥♥♥びくびくって♥♥♥しれましゅよおほほおお♥♥♥♥♥♥」

「マスター！腰の動きが止まっています！いいえ……腰が引けて……まさか、もう射精してしまうんですか！？……BBさんのひよっこフェラで返り討ちに合うなんて早漏もいいところですよ！！……はあああ……」

通信先からマシュの深い溜息が聞こえてくる。くそ！誰が早漏だよ！こんな舌使いされたら誰だって！ううっ！マジでやばい！

「えんろしにやいれええ♥♥♥わたしのおくひに～♥♥♥どぴゅどぴゅ♥♥♥しちえってくらふあい♥♥♥♥♥♥シエンパイ♥♥♥」

トロンとした瞳でBBちゃんが俺のちんぽにむしゃぶりついて！ううっもういい！どうにでもなれ！イク！イク！イク！イッチまううう！！！！

どびゅるるるるる♥♥♥びゅううう———♥♥♥♥♥♥♥びゅびゅ———♥♥♥

「んぶううう♥♥♥♥♥♥お精子きたああああ♥♥♥♥♥♥んぐう♥♥♥んぐきゅ♥♥♥ごく♥♥♥♥♥♥ごく♥♥♥」

「BBさん鼻の下を伸ばしたまま、マスターの精子をごくごく美味しそうに飲んでいきます。大量射精のせいで、漏れ出た精液が鼻から流れ出ています！そんな痴女フェラに屈するなんて、どうしようもないすけべちんぽです」

「んふふ♥♥♥まだああ、にようろうにい♥♥♥♥♥のこってましゅよねえ
♥♥♥♥♥んちゅ♥ちゅぼぼ♥♥♥♥♥ちゅるちゅる♥♥♥」

くそ！裏筋まで刺激して、尿道の精子まで搾り取られる！止まんねえ♥
すっげえ気持ちいい♥♥♥

びゅ———♥♥♥びゅびゅ———♥♥♥♥♥

「んぐうっ♥♥♥♥♥んぎゅ♥♥♥♥♥んぐうう♥♥♥♥♥あはあ♥♥♥おいしい
い♥♥♥♥♥センパイの精液んぐ♥♥♥全部のんじゃいましたああ♥♥♥♥♥
ああ♥♥♥イカ臭い♥♥♥」

「BBさんの魔力値上昇。サキュバスに敗北射精したあげく魔力まで奪わ
れて最低ですねマスター。せめて気持ち悪いアへ顔だけでもどうにかし
てください」

マシュメ！BBちゃんのフェラが気持ち良すぎるんだからしょうがないだ
ろ！なんで俺にだけそんなに冷たいんだよ！俺だって一生懸命サキュ
バスとやってるだろうが！

それにしても、さすがBBちゃんのエロボディを持ったサキュバス油断で
きない。

うっすらと笑いながら、まだ俺のちんぽを見ていやがる……



2、BBちゃんて童貞卒業！乳もみ、締めつけ、中出しセックス

はあはあはあ……しかし、かなり精子を持っていかれたな。

「マスターまだ金玉の中の精子は残っていますか？ちゃんとBBさんの子宮にぶっかけて、卵を孕ませる精子は残しておいてください」

ああ、わかってるぜ。もう一回スキル発動。応急手当！

光が俺の下半身を包み込む。これは金玉でつくる精子を一時的に増やすスキルだ。

ぎゅるぎゅると玉がうなりをあげて、サキュバスを孕ませるための精子を増産していく。

ピピッ

そこでマシュとは別の通信が入る。

「すごいわねあなたのスキル。さすが対サキュバス用に特化したマスターだわ。この私が特別にスカウトしただけのことはあるわね！」

「あれ、オルガマリー所長いたんですか？」

「居たわよ！っていうか隣にずっといたでしょマシュ！」

「そうだったのですね、影が薄いので気づきませんでした」

「ひどくない！？」

うん、涙目のオルガマリー所長は可愛い。さてと、そろそろ金玉の中の精子も補充できたしリベンジと行くか！

「マスター再び勃起し始めました。金玉の中の精子も充填完了。ですがまた、気持ち悪いアへ顔さらして、精子の無駄撃ちだけはやめてくださいね」

マシュのやつサポートとか言いながら、やる気を削ぐことばかり言いやがって！帰ったら、俺のちんぽでわからせてやるから覚えてろよ！

「そうですか。楽しみにしています、マスター。できるものなら……」

ひっ！こえええ！通信なのに殺気が伝わってきやがる。助けて！所長！

「バカなこと言っていないで目の前のサキュバスに集中なさい！来るわよ！」

おわ！また下半身狙ってきやがった！まだしゃぶり足りないのかよエロサキュバスめ！

「許せません！これまでのセンパイたちはBBちゃんのフェラチオ一発で逝ってくれたのに！もう一度こうやって♥ちゅぱちゅぱしてあげます！おほおお♥♥♥」

「BBさん口をOの字に開けて、いやらしいフェラ素振りで挑発してきます！」

くっ！エロい口内オナホだぜ！可愛い顔をしていながら、けしからんエロサキュバスだ！

そしてこの無秩序に揺れまくる爆乳も、けしからん大きさだ！反省させてやる！

「BBさんのエロ乳を捕らえました！すごい指の動きで揉みしだいています！指の動きまで気持ち悪いですマスター！」

「ああん♥センパイ♥♥♥お口でちゅぱちゅぱ♥してあげたからって、調子に乗ってわたしのおっぱいわしづかみしちゃうなんて♥♥♥大胆なんだから♥♥♥ああん♥♥♥乱暴な揉みかたですね♥いいんですよ？センパイが童貞臭い揉みかたでも♥♥♥BBちゃんが気持ちいいフリをしてあげますから♥♥♥♥♥ああん♥上手です♥♥♥」

ふざけやがって！これならどうだ！いくぜ！BBちゃん！

「マスター乳首をこねあげる手の動きがいやらしいです！BBさんの巨乳を下からもみあげて、絞り出すように根本から震わせてます。そのままBBさんの後ろに回って……まさか！」

ずりゅん♥♥♥

「デカ尻を掴んで丸見えのマンコに挿れた！挿れました！マスターついに童貞ちんぽ卒業です！おめでとうございます！」

そう俺は憧れのBBちゃんのおマンコでついに童貞を捨てたのだ！

「はああああん♥♥♥♥♥後ろからいきなり挿れられちゃいましたあ♥♥♥♥♥まだなにも許可してないのに♥♥♥身勝手に童貞ちんぽを女の子に突っ込むなんて！センパイってば、ケダモノですね♥♥♥ああ……イイ♥♥♥」

くっ！これが女の子のナカか！すげえうねってやがる。だが、負けねえ！エロ可愛いBBちゃんの格好しやがって絶対イかせてやるからな！

パンッパンッパンッ♥♥♥

「後ろからすごい勢いで腰を突き刺しています！BBさんの白くていやらしいお尻とおっぱいが、ぶるんぶるん♥揺れまくっていますマスター！さすがのBBさんの顔も赤くなって感じているようです」

そうなのか？BBちゃんが俺のちんぽで！

「くっ！そんな事ありえません！わたしがセンパイの下手くそなドーテー腰使いで感じるなんて！ひゃん♥♥♥おっぱいまた揉んで♥♥♥.....イイ♥♥♥♥♥乱暴に指を食い込ませて♥♥♥BBちゃんのおっぱいの形が変わっちゃいそうです♥♥♥責任とってください！センパイ♥♥♥」

ぐお！今度は急に締め付けてきやがる。

「どうですか？センパイ♥♥♥♥♥BBちゃんのおマンコ締まるでしょ？センパイがわたしのおっぱいをぎゅうって♥♥♥揉みしだくたびに♥BBちゃんもセンパイのちんぽをぎゅうぎゅう♥♥♥って締め付けちゃいますよ♥覚悟してくださいね♥」

ぎゅん♥♥♥ぎゅぎゅう♥♥♥

くっ！すげえ締め付け！俺がBBちゃんの柔らかくて大きなおっぱい揉むたびに、ほんとに膣を締め付けてきやがる！マジで痴女だな！

「はあはあ♥♥♥♥センパイも♥♥♥んふう♥♥♥しつこいですね！そんなに、BBちゃんのおっぱい大好きなんですか？はあん♥♥♥♥♥それにいくら締め付けても♥♥♥生意気に押し返してきて♥♥♥ちんぽもすごく反抗的です♥♥♥♥♥あはああん♥♥♥」

おっぱい揉むと、ちんぽを締め付ける♥♥♥くそ！くせになりそうだぜ。

「お互い譲りません！おっぱいを揉みしだくごとにBBさんのマンコがきゅんきゅんうなっています！あ！ですが、BBさんの唇を噛み締めています！そろそろ限界なのかもしれません」

「ま、まずいです♥おマンコ締め上げたら、膣壁こすられすぎて.....もう♥♥♥♥♥センパイ♥♥♥ちよっとまってください！」

断る！ほら！どうした！まだまだ俺はいけるぞ！

パンツパンツパンツ

「はうああ♥♥♥♥♥やだ.....このままじゃイカされちゃう！倒されちゃう！
お願いです♥♥♥センパイ♥♥♥ちんぽ抜いてください！！！」

イケよそのまま！俺のちんぽでイッてくれ！

「はあはあ♥♥♥♥♥センパイ♥♥♥お願いです♥♥♥オマンコからちんぽ抜い
てくれたら♥♥♥BBちゃんのこの爆乳でおちんぽ挟んであげちゃいますよ
♥♥♥このやわらかいおっぱいで~ずりずり♥♥♥って♥♥♥.....うふふ♥パイ
ズリ.....大好きですよ？センパイ♥♥♥」

パ、パイズリだと！？BBちゃんの爆乳で？

「行けません！マスター！BBさんの誘惑に乗っては、せっかく中出しす
るチャンスが！」

「はうん♥いいんですか？わたしにこのまま種付けしちゃうと♥はあん♥♥♥
二度とBBちゃんの爆乳パイズリを味わえませんか？」

たしかに！それはもったいない！

「何を言っているんですかマスター！しっかりしてください！相手はサ
キュバスなんですよ」

で、でも.....BBちゃんのパイズリが！

ピピッ

そこで再び別の通信が入る。

「もしもーし♥センパイ♥ホンモノのBBちゃんです♥ご褒美思いついたん
ですけどお~勝てたらパイズリしてあげちゃおっかな~♥それじゃあ♥が
んばってくださいね！」

プツンッ

「悪いな、ニセモノのBBちゃん！俺はお前のエロ乳の誘惑なんかには負けないぜ！」

「うわあ……最低」

ドン引きのマシュを後目に俺は再び腰をふりはじめる。

「ふ、ふん！ですが、動きを止めてしまったのは失敗ですね♥もう、これまでみたいにはいきませんよ！」

たしかに一気にイカせるのには失敗した、だがお前の弱点もわかってきたぜ。

ここだろ！

俺は少し角度を上げてBBちゃんのマンコを貫く。

「ひぐうう！？っ♥♥♥♥♥そこ！ダメええええっ♥♥♥♥♥なんで！なんで童貞ちんぽのくせに！BBちゃんの弱いところ当ててんですか！？こんなの！こんなの知りません♥♥♥♥♥あああ♥ああああああ♥♥♥♥♥」

「BBさんが髪を振り乱して暴れています。マスターのちんぽがBBさんのマンコをえぐって、抜き挿しするごとに全身が震えて！今片膝をつきました。もう少しですマスター！その淫乱サーヴァントをイかせてください」

言われるまでもない。俺をパイズリで誘惑したことを後悔させてやるぜBBちゃん！

「ああああん♥♥♥センパイのちんぽが！奥まで♥♥♥わたしのマンコがセンパイのデカちんぽの形になっちゃう！ううう♥♥♥♥♥気持ちイイ♥♥♥♥♥」

「BBさん、床に手を付きました。四つん這いでマスターのちんぽにされるがままです」

よし！もう少しだ！BBちゃんの子宮の卵にぶっかけて、孕ませてやるぜ。

「屈辱です！わたしが♥♥♥ああん♥♥♥童貞ちゃんぽなんかに負けるわけないじゃないですか！！！！え——い♥♥♥♥」



！？

「BBさん反撃のヒップアタックです！マスターのちんぽが入ったまま後ろに倒れ込みました！」

ずぶぶぶぶぶ♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥

うおおおお！BBちゃんのデカ尻が！体重が！ちんぽに響く！！！！

「ひゃあああああんっ♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥センパイのちんぽが♥子宮を突き抜けて
.....あああ♥♥♥でもこのまま！騎乗位で犯してあげます♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥センパイ♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

「危険です！BBさんがマスターのちんぽをくわえこんで離しません！女の子にのしかかられて、されるがままじゃないですか！しっかりしてください童貞マスター！」

おのれBBちゃんめ！そのまま向きを変えてゆれるおっぱい見せてくれ！

「ふん♥♥♥まだまだ余裕がありそうですね♥♥♥そうこなくっちゃ♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥いいですよ？BBちゃんのデカ乳たっぷり堪能してください♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

「M字に開脚した股にちんぽを挿れたまま、くるりと向きを変えました。マスターの目の前にいやらしい乳が垂れ下がっています！必死すぎるくらい舌を伸ばして、しゃぶる気ですね！マスター！」

当然だ！こんなエロい乳首があればむしゃぶりつくのが礼儀！

じゅるる♥♥♥ちゅぱああ♥♥♥ちゅぷちゅぷうう♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥

「はああああん♥♥♥赤ちゃんみたい♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥どこまで童貞くさいんですか！そんなに必死にむしゃぶりついて！ひゃああん♥♥♥そんなにBBちゃんのおっぱいおいしいんでちゅか？こまった赤ちゃんでちゅね♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

「本当です。情けない顔で乳首に吸い付いて、ちんぽもさらに大きくなっています。デカイ赤ん坊のくせに、赤ちゃんをつくろうと必死じゃないですか。ヘンタイ」

なんとでも言え！BBちゃん絶対孕ませてやるからな！戻ったらマシユお前もだ！

「ふああん♥♥♥でもこんな大きなちんぽ……耐えられなくなって……ダメ！ イッたら卵が丸裸にされちゃう♥♥♥♥♥精子ぶっかけられたら孕んじやうのに！」

そろそろ、俺もやばいな。
次に無駄撃ちしたら全部魔力吸い取られちまいそうだ。

「次にイッたほうが負けるということですね。いよいよ正念場ですマスター」

そういうことだな。イクぜ！ラストスパート！

「ま、負けませんからねセンパイ♥♥♥勝つのはわたしです！センパイは情けなくビューービューーって♥わたしのオマンコに敗北射精しちゃってください！！！」

「すごい♥♥♥お互い腰を打ちつけあってます♥♥♥相手に構うことなく、身勝手に性器を押し付けあって！愛液と先走り汁があふれすぎてビショビショです！ふたりともすごくいやらしい！」

「すごい♥♥♥♥♥センパイのちんぽが何度も子宮の入り口にぶつかってきます！そこまでしてわたしを孕ませたいんですか！？あはん♥♥♥」

ああ、孕ませたいね！BBちゃんと子作りできるなんて最高だろ！！
おらああ！！

「ち、ちくびいい♥♥♥♥♥ひっぱらないでええ♥♥♥♥♥ゆるゆるになちゃう！オマンコもセンパイのデカちんぽでゆるゆるになっちゃってるのに！乳首までだらしなくなっちゃうよおお♥♥♥♥♥」

「BBさんのお乳が、垂れて見えるくらいに乳首が引っ張られています！B
Bさんも負けじとマスターの乳首を両手でコリコリひねりあげています！」

おおおお！BBちゃんも容赦がないな！だが、奥の手はこういう時使うも
んだぜ。

敵味方の区別なく、サキュバスサーヴァントにだけ使える特別な俺の令
呪だ！

令呪すべて使用！BBちゃんの感度三千倍になれ！

「ひぎゃあああああああああああああああああッつっ
♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

身体の感度が三千倍になり、のけぞったBBちゃんにさらなるちんぽの
追い打ちをかける。

パンパンツツツパンツツパンツツパンツツ！！！！

「あひひいいいいいいいいいいいいいい♥♥♥らめえええええええええ
♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥らめらめらめえええええええええつ♥♥♥♥♥♥♥♥ちんぽ
しゅご！ちんぽおおおしゅごいいいいいい♥♥♥♥♥♥♥♥オマンコだめになっちゃ
うッ♥♥♥♥♥♥♥♥ちくびもおおおおおおおおおおおおミルクでちゃうううううう
うっ♥♥♥♥♥♥♥♥」

「イッています！BBさんが！マンコから潮を吹いて！オツパイの先からもミ
ルクがでています！？」

「たすけて♥♥♥たすけてください♥♥♥♥♥♥♥♥おほおおおおおおお♥♥♥♥♥♥♥♥あ
たまおかしくなっちゃうツツ♥♥♥♥♥♥♥♥ぜんぶでりゅう♥♥♥♥♥♥♥♥これまでため
たまりよくまでっ♥♥♥♥♥♥♥♥ぜんぶでちゃうううううっ♥♥♥♥♥♥♥♥」

「ぎもちいいいいいいいい♥♥♥♥♥♥♥♥せんぱあいつ♥♥♥♥♥♥♥♥ちんぽさいこうう
ううッ♥♥♥♥♥♥♥♥イカせてっ♥♥♥♥♥♥♥♥BBを逝かせてくらしやいいいい
いッ♥♥♥♥♥♥♥♥」

ああ、受け取れ！俺の精子を！

どびゅううううううっ♥♥♥♥♥♥びゆるびゆるびゆるびゆるっ♥♥♥♥♥♥ど
びゅううううううッ♥♥♥♥♥♥

「あああああああッ♥♥♥♥♥♥あづいいいいいいッ♥♥♥♥♥♥中出しいいい
いい♥♥♥♥♥♥卵にぜんぶぶっかけられてましゅううッ♥♥♥♥♥♥はらん
じゃうううううッ♥♥♥♥♥♥センパイのあかちゃんはらんじゃううう
うっっっっ♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥」

ビクンビクンと身体を大きく揺らして、そのまま崩れ落ちるBBちゃん。

俺もようやく射精が収まったちんぽを精液が溢れ出すBBちゃんのナカ
から引き抜く。

はああああ.....BBちゃんに中出し受精♥すっげえ気持ち良かった.....
しかし、恐ろしいサキュバスだったぜ。



サンプル版END

続きは本編でお楽しみください

**この作品はフィクションです。
実在の人物・団体・事件とは一切関係がありません。**

18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください。

**無断転載・複製・複写・Web上への掲載
(SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む)
は禁止です。**

読者のみなさん、こんばんは～
ヘンタイ小説家のエロバトルンです。



作品を最後まで読んでいただき
ありがとうございました！

これからも、「凌辱」「復讐もの」「ざまあ」「敵女」
または、「男性受け」「おねショ●」「ふたなり」
などのジャンルを書いていきます。

よろしければ、フォローや
高評価、お気に入り登録で
応援していただけると
嬉しいです。

感想レビューで、好きな
ヒロインの名前やエロかった
シーンを教えてください！

twitterで情報更新中です。
こちらもフォローを
よろしくお願いします。



🔍 エロバトルン 検索

*ご注意CGのみAI生成を使用しています。

